

受け継いだ人 託した人

空き家バンクを通じてマッチングし、売買成約を交わした4組の利用者にインタビュー。どんな人が空き家を購入し、どんな状態の空き家を買われているのか。実際の話聞いてみました。

農家への転身で 国東市へ

河本さん／松本さん

山口県から移住してきた河本さん。移住のきっかけは、農業への転身でした。農機具を置くため倉庫付きであることを重視して探し、見つけ出した家を購入したそうです。

「見に来た時、「これならなんとかなるな」と思いました」そう語る河本さんの住む家は、セルフリノベーションの真つ最中。床から天井まで、自分で張りなおしています。

移住してきたのは今年のはじめ。1年目は地区の役目への参加を免除されているそうですが、自らすすんで参加しているとのこと。「住まわせてもらっているから、そういうのは積極的に参加していった方が良いと思っ



▲家を託した松本さん夫婦

ています」

「宝くじに当たったみたい。いい人が来てくれて安心できました」そう語るのは、河本さんに家を託した松本さん夫婦。「売却の手続きは、結構面倒くさいなあとは思いました。けれど、壊すことなどを考えたら微々たるものです」

良いマッチングの裏側には地元業者の協力もあります。

「売買の手続きを自分たちでやるうと思ったら本当に大変。市と提携している業者が、煩わしい手続きをやってくれたので助かった」と口を揃えています。

河本さんは現在、地元農家の下でしいたけ栽培の研修を受けているそうです。「しいたけだけでなく、田んぼや畑も耕作を始めています。山口の出身なので、いずれはレンコンなどもやってみたいですね」

20年以上の付き合いから国東へ

千葉さん／河野さん

昨年、東京から武蔵町へとやってきた千葉さん。武蔵町との縁は20年以上前にさかのぼります。「マリノピアむさしを利用していて、国東には何度も来ていました。その関係でお世話になっている方もいて、ずっと移住したいと考えていたんです」

飛行機を通いつめ、空き家バンクの物件を自分の足で見て回りました。千葉さんの家探しに国東に住む友人たちも協力。探し回った末、立派な構えに惚れ込み今の家を購入したそうです。費用を抑えるため、業者には最低限の生活ができる空間を整えてもらい、現在は自力で他の部屋の整備を進めています。作



▲千葉さんと茶飲み友だちのおばあちゃん

業の間には、地域の人との交流を楽しんでいるそう。「近所のおばあちゃんと茶飲み友だちになったんです。遊びに行かないと『来ないのか』って電話かけてくれるんですよ」

地域の行事にも積極的に参加しているそうで、地域の人々からも、いい人が来てくれた」と評判です。そんな話を聞いて、安心したと語る元所有者の河野さん。空き家バンクへの登録は、地域の空き家活用推進員からの連絡がきっかけだったといいます。「住宅地の中にある家だから、台風などで周りに迷惑が掛からないか不安がありました。千葉さんが住んでくれて、肩の荷が下りたような心地です」

千葉さんは「地域の中では若い方。買い物などの日常の困りごとも助けられたら」と話してくれました。

古民家にあこがれて

園田さん／長木さん



「子どもが生まれたことを期に、広い家に住むことを考え始めました。昔ながらの木造の家に住みたくて、空き家バンクで家を探したんです」そう語るのは鹿児島県出身の園田さん。就職のため、10年前に国東に移住していました。

気になる物件を見つけたらすぐに夫婦で見に行ったといいます。そうして見つけたのが、長木さんが所有していた空き家でした。

「他にも候補はありましたが、家の前の庭が良くてここに。縁側もあって、理想的でした。リフォームはするつもりでしたので、業者さんと一緒に費用を相談しながら見たのが

不便さを 楽しむ暮らし

伊藤さん／村田さん



東京の中心地から、国東の山間部へと移住した伊藤さん。最寄りのコンビニでさえ車で山を降りなければいけないような場所、不便さを楽しみながら暮らしています。

国東との出会いは、安岐町の農家が行っていた農泊。国東や杵築で家を探している中、空き家バンクに登録されていた物件を見つけたそうです。「雨漏りもなく、すぐに住めるほど状態が良い家だったので、購入した理由の一つです。リフォームはしたいけどまだ手つかず。内装やウッドデッキなど、自分でやってみたいと考えています」

地域へ入っていくことへの不安はあったとか。「自分は外か

よかったですね」元所有者の長木さんに話を聞きました。

「園田さんより前にも購入の相談は受けていました。けれど、地域の人と仲良くやってくれそうか、長く住んでくれそうか、そんな人となりを条件にしていたので、なかなか良い買い手が見つからなかったんです」たとえ今売ることができて自分の手を離れたとしても、その購入者がすべしなくなってしまうたら、結局地域に迷惑をかけてしまうことになる。そんな長期的な目で、先祖代々の家を譲る先を見極めた長木さん。まだ若く子どももいる夫婦で、なおかつ、すでに国東に根ざっていた園田さんは、まさに条件にマッチする相手でした。



▲園田さんが購入する決め手のひとつとなった玄関前の庭

ら来たわけですから。でも、ご挨拶に伺ったら皆さん良い人で安心しました」

伊藤さんに先祖代々の家を託したのは村田さん。伊藤さんが移住して来る前に、区長をはじめ地域の人は話を通していたそうです。「移住された方が地域にうまく入っていけるかが不安でした。何かあれば、自分に連絡していただければと思っています」元所有者が事前に事情を伝えていたことで、移住者が地域に入っていくやすい環境ができていたのかもしれない。

売却後の心境を聞きました。「本当にありがたいと思っています。先祖から住んでいた家をお譲りして、家を守ることを引き継いでいただけるわけです。感謝ですね」



▲伊藤さんが購入した物件。閑静な山の上に建っている。